

2022年5月25日

2022年 ゴールデンウィーク集客動向調査

前年比+20%増加するが、コロナ前と比べれば5割の水準

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、「2022年 ゴールデンウィーク集客動向調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

調査結果の概要

1. 今年のゴールデンウィーク期間中に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設（254カ所）の人出は延べ483.0万人で、前年（2021年、394.3万人）からは+22.5%増加したものの、コロナ感染拡大前の2019年（928.8万人）との比較では△48.0%と半分程度にとどまった。
2. 新型コロナウイルスの感染拡大後、3年ぶりに移動制限が全国的に出されていない中で大型連休であり、県内の行楽地では活況が期待されたが、多くのイベント・施設の集客状況はコロナ前には及ばなかった。
3. 昨年は来訪者の“安・近・短”傾向がみられたが、今年は、昨年と比べると県外からの来訪者が目立ち、特に伊豆を中心とした東部地域では、東京など首都圏からの観光客が増加し、コロナ前比△24.6%まで回復した。一方、西部地域は「浜松まつり」の影響が大きく、△70.3%の大幅減となった（浜松まつりを除くと△29.7%）。
4. 移動制限が解除されて県外客も戻り、一定の集客はできたが、以前のような賑わいを取り戻すためには、感染状況の推移とともに、入場制限の緩和など業界団体が定めたガイドラインの見直しがポイントとなる。また、人手不足を訴える事業者が非常に多く、夏季休暇期間中などの繁忙期におけるスタッフの確保が今後の課題となる。

※本件のお問合せ先 大石 彰男

2022年ゴールデンウィーク集客動向調査

～前年比+20%増加するが、コロナ前と比べれば5割の水準～

主任研究員：大石 彰男
Oishi Akio

研究員：酒井 悠太
Sakai Yuta

研究員：福村 萌
Fukumura Moe

- 今年のゴールデンウィーク（以下、GW）期間中（10日間：4月29日～5月8日）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設（254カ所）の人出は延べ483.0万人で、前年（2021年、394.3万人）からは+22.5%増加したものの、コロナ感染拡大前の2019年（928.8万人）との比較では△48.0%と半分程度にとどまった。
- 新型コロナウイルスの感染拡大後、3年ぶりに移動制限が全国的に出されていない中での大型連休であり、県内の行楽地では活況が期待されたが、多くのイベント・施設の集客状況はコロナ前には及ばなかった。
- 昨年は来訪者の“安・近・短”傾向がみられたが、今年は、昨年と比べると県外からの来訪者が目立ち、特に伊豆を中心とした東部地域では、東京など首都圏からの観光客が増加した。
- 移動制限が解除されて県外客も戻り、一定の集客はできたが、以前のような賑わいを取り戻すためには、感染状況の推移とともに、入場制限の緩和など業界団体が定めたガイドラインの見直しがポイントとなる。また、人手不足を訴える事業者が非常に多く、GWや夏季休暇期間中などの繁忙期におけるスタッフの確保が今後の課題となる。

コロナ前と比べて人出は半分にとどまる

昭和の日（4月29日）から翌週の日曜日（5月8日）まで、3連休が2回の飛び石となり、間の平日を2日休むと10連休となった今年のゴールデンウィーク（以下、GW）。3月下旬にまん延防止等重点措置が解除され、新型コロナウイルスの感染拡大後、3年ぶりに移動制限が全国的に出されていない中での大型連休となり、県内の行楽地でも活況が期待された。

期間中、県内の観光施設のほとんどが通常通り

の営業を行ったものの、感染者数が大幅に減少した状況ではなかったこともあり、由比桜えびまつりや県内各地でのこいのぼり祭りなど、イベントを中止する主催者も散見された。こうした状況下、今年のGW期間中の静岡県内の主なイベントや観光施設254カ所の人出は延べ483.0万人で、前年（2021年、394.3万人）からは+22.5%増加したものの、感染拡大前（2019年、928.8万人）と比較すると△48.0%と、コロナ前の半分程度にとどまった（詳細は6頁、図表5参照）。

地域別にみると、首都圏に近い東部地域はコロ

ナ前比△24.6%まで回復。一方、西部地域は「浜松まつり」の影響が大きく、△70.3%の大幅減となった（浜松まつりを除くと△29.7%）。GW中、県内で5万人以上を集客したイベントや施設は図表1の通りである。

以下、GW期間中のイベントや観光施設を6つのグループに分けて今年の動向をみていく。

1. イベント (33先)
[47.9万人 21年比+159% 19年比△86%]
～中止・縮小も多くコロナ前比では大幅に減少～

県内の主要イベントの集客数は47.9万人で、前年比で+159.1%と大幅に増加したが、コロナ前の2019年と比べると△85.5%の大幅減となった。

GW期間中における県内最大のイベントである「浜松まつり」（浜松市）は、昨年は無観客での開催となったが、今年は、凧揚げ会場で観客を入れて実施し、3日間で12万人以上を集めた。ただし、御殿屋台の引き回しは各町内に限定されたため、コロナ以前の100万人を超える集客数には程遠い状況だった。その他、「浅間大社 流鏝馬祭」（富士宮市、5.2万人）や「藤まつり」（藤枝市、3.7万人）も賑わいをみせたが、いずれも2019年比では大幅なマイナスとなった。

2. 商業施設・道の駅 (50先)
[253.3万人 21年比+6% 19年比△22%]
～人出が屋外に流れた影響で前年比は小幅な伸び～

商業施設・道の駅の集客数は253.3万人で、前年比は+5.9%と小幅な伸びにとどまり、2019年比では△22.4%減少した。

百貨店やショッピングセンターなどの大型商業施設は、コロナ感染による移動制限の緩和に伴って屋外のイベントや施設に人出が流れたこともあって多くの施設が前年並みにとどまった。集客に向けて、日本各地の物産展やGW期間中の特別なイベントなどを開催した施設もあったが、いずれも期待通りの集客にはつながらなかった模様。

道の駅では、「富士川楽座」（富士市、13.0万人）や「道の駅 伊東マリンタウン」（伊東市、9.3万人）、「道の駅 伊豆ゲートウェイ函南」（函南町、8.8万人）など、東部地域の施設を中心に県外客などを集め、回答のあった全19先すべてで前年比増加したが、2019年と比べると、いずれも△2～3割の減少となった。また、中部地域の道の駅では、開催中の「世界お茶まつり2022」と連携する動きもみられた。

一方、一昨年に新東名高速道路の島田金谷IC近くにオープンした「KADODE OOIGAWA」（島田市）は、隣接する大井川鉄道が初めてGW期間中に人気の「きかんしゃトーマス号」の運転を実施したこともあり、5.6万人を集客、賑わいをみせた。

3. 参加・体験型施設、娯楽施設 (80先)
[95.9万人 21年比+38% 19年比△45%]
～キャンプ場がコロナ前を唯一上回る～

参加・体験型施設や映画館など娯楽施設の来場者数は95.9万人で、前年比では+37.7%と大きく増加したが、2019年比では△44.7%と、△4割以上の減少となった。

図表1 静岡県内のGW集客5万人以上のイベント、施設

	イベント、施設名	集客人数	前年比	2019年比		イベント、施設名	集客人数	前年比	2019年比
1	富士川楽座（富士市）	13.0万人	+16.1%	△23.2%	7	静岡伊勢丹（静岡市）	8.6万人	+0.2%	—
2	浜松まつり（浜松市）	12.3万人	無観客で実施	△94.1%	8	三島スカイウォーク（三島市）	7.4万人	+51.5%	△36.6%
3	浜名湖ガーデンパーク（浜松市）	9.8万人	+8.5%	+8.7%	9	KADODE OOIGAWA（島田市）	5.6万人	+55.9%	2020年開業
4	三嶋大社（三島市）	9.3万人	+48.4%	—	10	焼津さかなセンター（焼津市）	5.4万人	+69.3%	△45.3%
5	道の駅 伊東マリンタウン（伊東市）	9.3万人	+62.5%	△30.7%	11	浅間大社 流鏝馬祭（富士宮市）	5.2万人	+108.0%	△42.2%
6	道の駅 伊豆ゲートウェイ函南（函南町）	8.8万人	+45.0%	△29.1%					

注) データ公表が可能なイベント、施設のみを掲載した

資料：当所アンケート

テーマパークなどの参加・体験型施設では、「三島スカイウォーク」（三島市、7.4万人）や「伊豆ぐらんぱる公園」（伊東市、3.2万人）などの屋外型施設が人気を集め、前年比では5割以上増加した施設もあったが、2019年比ではいずれも△3～4割減少した。また、伊豆地域を中心に、いちご狩り施設も家族連れなどで賑わい、前年の倍以上を集客した施設もみられた。一方、屋内施設では、「浜名湖体験学習施設ウォット」（浜松市、1.0万人）や「静岡科学館る・く・る」（静岡市、0.9万人）といった子ども向け施設が人気を集めたが、コロナ前には及ばなかった。

娯楽施設では、4月30日から5月5日、および5月8日の計7日間にボートレースを開催した「ボートレース浜名湖」（湖西市、2.5万人）は前年を+1割弱上回ったが、「浜松オートレース場」（浜松市、1.5万人）および「静岡競輪場」（静岡市、2.5万人）は、期間中に本場開催がなく場外発売のみだったため、前年比でも減少した。また、映画館は、洋画の人気作がなかったことや、感染防止のため座席間隔を空けて上映していることもあり、前年比で+2割の増加にとどまり、2019年比では△6割以上減少した。

一方、近年のアウトドアブームで人気が高まっているキャンプ場は、多くの施設で好調だった。特に、人気アニメ「ゆるキャン△」にも登場した「田貫湖キャンプ場」（富士宮市、3.7万人）は、“聖地”として多くのアニメファンが訪れ、コロナ前の2019年との比較でも+100.2%と倍増。キャンプ場全体の数字を押し上げ、分野別で唯一、2019年実績を上回った。その他のキャンプ施設では、感染拡大防止のため、依然多くの施設でキャンプサイトを間引いた上で事前予約制を導入して営業。そのため、稼働率自体は高水準だったが、集客数の大幅増には至らなかった。

4. 動植物園・水族館 (21先)
 [42.2万人 21年比+31% 19年比△16%]
 ~屋外施設が多くコロナ前減少幅は△2割弱~

動植物園・水族館の来場者数は42.2万人で、ほとんどの施設で前年を上回り、前年比では+

30.9%と3割増加したが、2019年比では△16.1%下回った。いずれの施設も、天候に恵まれた5月3～5日の3日間に、特に多くの人を集めた。

子ども連れに人気の動物園は、「静岡市立日本平動物園」（静岡市、4.5万人）、「浜松市動物園」（浜松市、4.1万人）のいずれも期間中に4万人以上を集客。浜松市動物園は、2019年比でも△5.9%と減少幅が小さかった。

「浜名湖ガーデンパーク」（浜松市、9.8万人）では、昨年に引き続きGWを含めた4月2日から6月5日までの期間「スプリングフェスタ2022」としてイベントを開催。期間中はバラなどが見ごろを迎え、県西部地域や隣接する愛知県を中心に人を集め、2019年比+8.7%とコロナ前の実績を上回った。また、東部地域の「三島市立公園 楽寿園」（三島市、2.8万人）では、5月2日を臨時開園日として開園したほか、連日にわたってマルシェや限定ショップなどのイベントを開催し、2019年比+18.7%とコロナ前を上回った。

5. 博物館・美術館、自然スポット (50先)
 [34.7万人 21年比+36% 19年比△3%]
 ~東部地域の神社仏閣が人気で比較的良好~

博物館・美術館、自然スポットの来場者数は34.7万人で、前年比は+35.9%増加、2019年比では△3.1%と微減にとどまった。特に、東部では伊豆地域や富士山周辺、中部では久能山周辺の神社仏閣などが人気を集め、「三嶋大社」（三島市）は9万人超の人出で賑わった。

一方、屋内が中心の博物館・美術館も、GW期間中にイベントを開催するなどして多くの施設で前年を上回る来館者を集めた。特に、「佐野美術館」（三島市、0.5万人）では、ネコの撮影で有名な動物写真家・岩合光昭氏の写真展とともに岩合氏本人が来館するイベントなども開催し、多くのファンを集め、2019年比でも+58.7%と大幅な集客増となった。

また、3密を回避できるとして昨年のGW期間中に人気を集めた屋外の自然スポットでは、「白糸の滝」（富士宮市、2.5万人）が前年並みの集客を確保。一方、その近隣の「静岡県富士山世界遺

※1 県内区間：東名高速道路は静岡IC～焼津IC、新東名高速道路は新静岡IC～静岡SAスマートIC間の1日あたりの平均断面交通量

産センター」(富士宮市、0.6万人)は、前年比+47.8%増加したが、団体旅行客の減少などが響き、2019年比では△71.3%の大幅減となった。

6. 日帰り温浴施設 (20先)
(8.9万人 21年比△3% 19年比△61%)
 ～コロナ禍で営業に苦戦している事業者も～

スーパー銭湯や温泉などの日帰り温浴施設の来場者数は8.9万人で、前年比△3.2%減少と、6つの分野で唯一前年実績を下回り、2019年と比べても△61.4%減少した。

「笑福の湯」(焼津市、1.0万人)や「御胎内温泉健康センター」(御殿場市、0.9万人)など、人気の温浴施設ではコロナ前と比べて減少幅を△1～2割にとどめているが、減少幅が5割以上の施設もみられ、施設によって明暗が分かれた。また、昨年から今年にかけて、施設の休館に踏み切った事業者も散見され、コロナ禍で営業に苦戦している様子が見られる。

交通機関の利用状況はコロナ前の7～9割

GW期間中の交通機関の利用状況についても、総じて、昨年比では大幅に増加したが、感染拡大前との比較では大きく減少した。

JR東海管内における4月28日から5月8日までの新幹線の利用者数は、前年比2.7倍の310.4万人だったが、2018年との比較では8割程度にとど

まった。また、JRの静岡近郊区間の定期外利用人員は88.3万人で前年比+45%、2018年との比較では7割程度にとどまった。

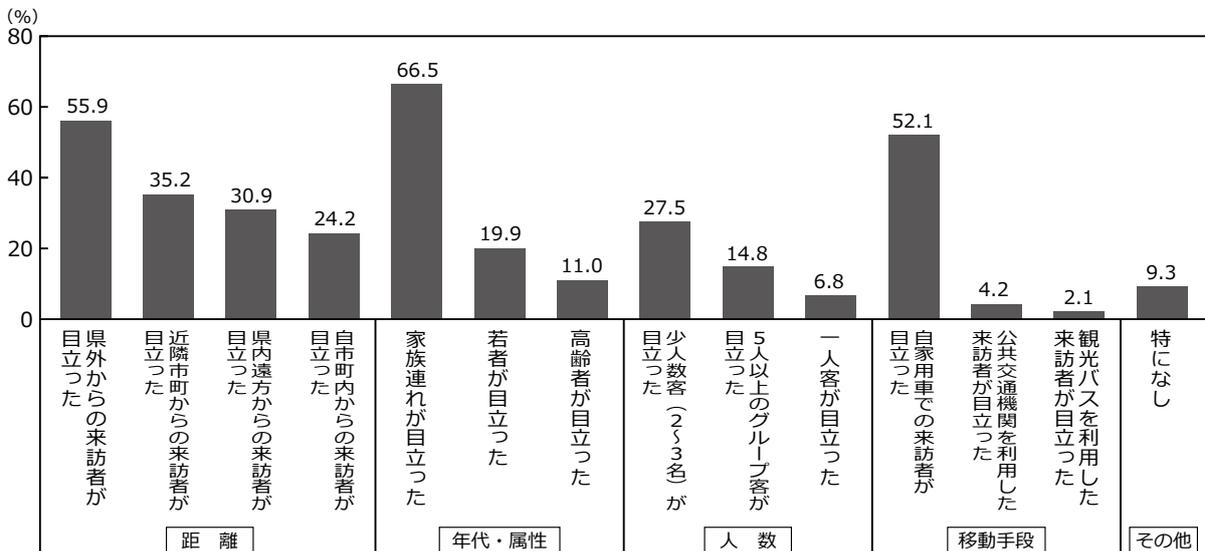
一方、中日本高速道路(株)によると、同期間の東名・新東名高速道路の県内区間※1における1日当たりの平均交通量は、東名高速道路で48,900台(前年比+11%)、新東名高速道路で69,000台(同+36%)と、いずれも前年比増加したが、2019年との比較では7～9割の水準だった。

富士山静岡空港の利用実績については、(株)フジドリームエアラインズによると、4月29日から5月8日に提供された計14,672席のうち搭乗者数は10,303人で、搭乗率は70.2%となった。なお、前年の搭乗率は55.8%だった。

東部を中心に県外客が目立つ

昨年のGWは、県内市町からの来訪者が中心で、「安・近・短」(費用が安くて距離が近く日程が短い)傾向がみられたが、今年のGWでは、どのような客層が県内の観光地に足を運んだのだろうか。そこで、今年に来訪者の特徴を尋ねたところ、昨年と比べて県外からの来訪者が目立ち、少人数の家族連れが多く、移動は自家用車という特徴が浮かび上がった(図表2)。コロナ感染拡大に伴う移動制限が全国的に解除されたこともあって、県内からの観光客だけではなく、特に伊豆などの東部

図表2 今年に来訪者の特徴 (複数回答)



資料：図表1に同じ

地域では、首都圏など県外からの観光客が増加した様子である。

天候・曜日配列はプラス要因、SNSが効果を発揮

来場者の増減要因について、“プラスの影響があった”点としては、中盤に好天に恵まれたことから「天候・気温」(47.9%)を挙げる声が多かったが、序盤に大雨に見舞われた地域もあり、減少要因と捉える事業者も3割おり、意見が分かれた(図表3)。「メディアやSNSなどによる露出」(47.6%)、「曜日配列」(44.6%)、独自イベントや企画など「自施設の取組み」(40.9%)が続いたが、特に「メディアやSNSなどによる露出」については、多くの施設がツイッターなどを活用しているほか、来場者がインスタグラムなどに投稿した情報が拡散して集客につながったとの声も聞かれ、PRの大きな武器となっている様子がうかがわれる。

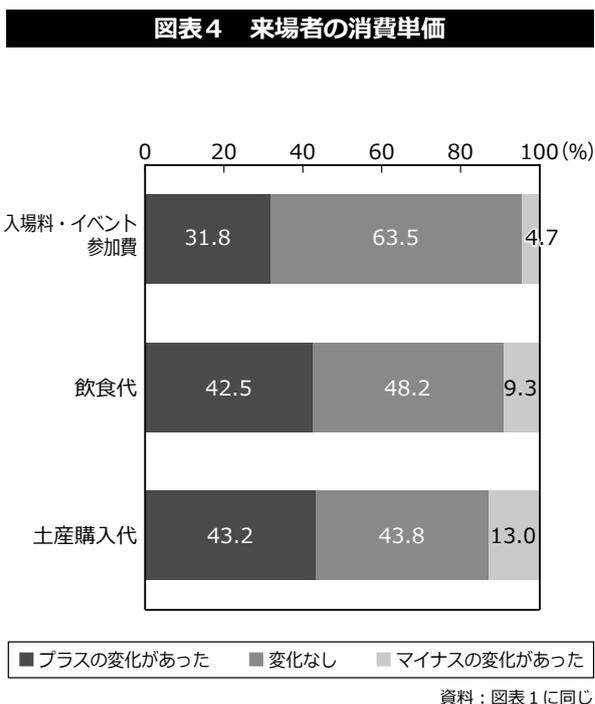
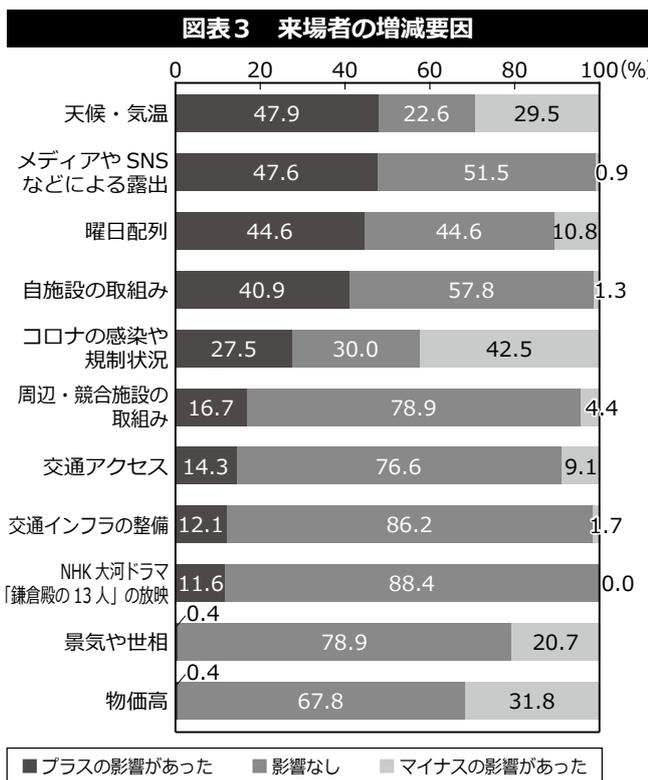
一方で“マイナスの影響があった”との回答は、「コロナの感染や規制状況」(42.5%)やガソリンなどの「物価高」(31.8%)で多く、集客への大きな制約となっている様子である。

また、来場者の消費単価については、「入場料・イベント参加費」「飲食代」「土産購入代」のいずれも“プラスの変化があった”との回答が3~4割を占めた(図表4)。昨年などは、コロナ禍で集客や販売が振るわない状態だった反動もあるとみられるが、「入園料を上げて来園客を確保できたため、料金改定に踏み切った」との声も聞かれた。



以上、今年のGW期間中の県内施設、イベントへの人出は、総じて前年を上回ったが、コロナ前の水準には大きく届かなかった。移動制限が解除され、県外客などある程度の集客はできたが、以前のような賑わいを取り戻すためには、感染状況の推移とともに、入場制限の緩和など業界団体の定めたガイドラインの見直しもポイントとなろう。

また、今回のアンケートでは、「スタッフの確保に苦労した」など人手不足を訴える事業者が非常に多く、行政等のフォローが必要との声も挙がった。GWや夏季休暇期間中など、繁忙期におけるスタッフの確保については、今後も業界の課題として対応していく必要があるだろう。



図表5 2022年GW 静岡県内イベント、観光施設の入出

イベント、施設名	所在地	入出(人)	2019年比(%)	イベント、施設名	所在地	入出(人)	2019年比(%)
富士川楽座	富士市	129,721	△23.2	静岡伊勢丹	静岡市	85,916	—
三嶋大社	三島市	92,783	—	KADODE OOIGAWA	島田市	56,421	—
道の駅 伊東マリンタウン	伊東市	92,527	△30.7	焼津さかなセンター	焼津市	54,348	△45.3
道の駅 伊豆ゲートウェイ函南	函南町	88,350	△29.1	静岡市立日本平動物園	静岡市	44,799	△22.6
三島スカイウォーク	三島市	73,500	△36.6	清水魚市場 河岸の市	静岡市	41,788	△23.1
浅間大社 流鍋馬祭	富士宮市	52,000	△42.2	藤まつり	藤枝市	37,000	△79.4
田貫湖キャンプ場	富士宮市	37,012	+100.2	静岡競輪場	静岡市	25,411	△24.2
伊豆ぐらんぱる公園	伊東市	32,484	△35.1	草薙総合運動場	静岡市	24,132	△30.5
伊豆シャボテン動物公園	伊東市	29,690	△26.1	グランシップ	静岡市	13,832	△39.3
小室山公園つつじ祭り	伊東市	28,400	△20.4	笑福の湯	焼津市	10,358	△15.5
三島市立公園 楽寿園	三島市	27,588	+18.7	しずおか特産品まつり 春の市	静岡市	10,000	—
富士山樹空の森	御殿場市	27,049	△29.7	静岡市立登呂博物館	静岡市	9,585	△43.9
小室山リッジウォーク "MISORA"・Café#321	伊東市	25,407	—	静岡科学館る・く・る	静岡市	9,351	△61.3
白糸の滝	富士宮市	24,791	△23.6	道の駅 川根温泉	島田市	8,018	△51.1
道の駅 ふじおやま	小山町	24,389	△17.4	ふじのくに茶の都ミュージアム	島田市	6,317	△28.2
沼津 みなと新鮮館	沼津市	19,447	△50.7	瀬戸谷温泉ゆらく	藤枝市	6,003	△18.7
伊豆パノラマパーク	伊豆の国市	19,317	△28.3	静岡市ふれあい健康増進館 ゆ・ら・ら	静岡市	5,794	△37.4
伊豆アニマルキングダム	東伊豆町	18,866	△40.8	駿府の工房 匠宿	静岡市	5,390	△38.8
姫の沢公園花まつり	熱海市	17,794	—	大久保ガラススキー場	藤枝市	5,339	+18.3
道の駅 開国下田みなと	下田市	17,577	△34.0	リパティリゾート久能山	静岡市	5,015	△65.4
伊豆修善寺サイクルスポーツセンター	伊豆市	17,093	△19.0	中部地域その他46カ所		884,381	—
ACAO FOREST	熱海市	15,508	△20.8	中部地域合計		1,349,198	△45.3
春のあたまビール祭り	熱海市	14,378	△74.3	浜松まつり	浜松市	122,763	△94.1
伊豆修善寺 虹の郷	伊豆市	13,647	△12.0	浜名湖ガーデンパーク	浜松市	98,019	+8.7
道の駅 伊豆月ヶ瀬	伊豆市	12,350	—	静岡県立森林公園	浜松市	41,000	△30.5
道の駅 すばしり	小山町	12,302	△45.4	浜松市動物園	浜松市	40,815	△5.9
熱海海上花火大会	熱海市	12,000	—	道の駅 潮見坂	湖西市	39,083	△24.1
酪農王国 オラッチェ	函南町	11,976	△28.9	はままつフラワーパーク	浜松市	35,120	△44.4
石廊崎オーシャンパーク	南伊豆町	11,267	△30.5	ボートレース浜名湖	湖西市	25,043	△24.3
道の駅 富士	富士市	10,130	—	航空自衛隊 浜松広報館	浜松市	15,999	△55.1
鎌倉殿の13人 伊豆の国 大河ドラマ館	伊豆の国市	9,672	—	浜松オートレース場	浜松市	15,386	△55.4
御胎内温泉健康センター	御殿場市	9,256	△21.7	浜松城	浜松市	13,970	△35.8
時之栖 伊豆温泉村 百笑の湯	伊豆市	8,703	—	県営遠州灘海浜公園	浜松市	12,950	—
韮山反射炉	伊豆の国市	8,010	△48.2	竜ヶ岩洞	浜松市	12,682	△43.9
土肥金山	伊豆市	7,029	△40.7	浜名湖体験学習施設ウォット	浜松市	10,207	△18.0
静岡県富士山世界遺産センター	富士宮市	6,345	△71.3	大須賀物産センター サンサンファーム	掛川市	9,247	△18.9
富士山天母の湯	富士宮市	5,655	△30.9	掛川城	掛川市	8,655	△41.5
小山町民いこいの家 あしがら温泉	小山町	5,556	△43.1	道の駅 風のマルシェ 御前崎	御前崎市	8,502	—
いこいのぼりフェスティバル	沼津市	5,500	△75.6	とよおか採れたて元気むら	磐田市	7,593	△6.5
下田ローブウェイ	下田市	5,264	—	道の駅 天竜相津花桃の里	浜松市	7,203	△0.6
佐野美術館	三島市	5,105	+58.7	道の駅 いっぶく処横川	浜松市	6,619	△16.1
東部地域その他81カ所		1,318,110	—	浜岡原子力館	御前崎市	5,661	△62.8
東部地域合計		2,403,548	△24.6	西部地域その他46カ所		540,307	—
				西部地域合計		1,076,824	△70.3
				静岡県合計		4,829,570	△48.0

注1) データ公表が可能で、入込客数が5,000人以上のイベント、施設のみを掲載した

資料：図表1に同じ

注2) 各地域の最下部には、入出が5,000人未満およびデータ公表を不可としたイベント、施設の数字を合算して記載した

注3) 各地域合計の2019年比も、入出が5,000人未満およびデータ公表を不可としたイベント、施設の数字を合算して記載した

注4) 入出の合計値は、今年度の実数が把握可能なすべての数値を合算

調査方法：GW期間中の主なイベントや観光・レジャー施設など、479先に調査票を発送、うち254カ所から回答を得た(回答率53.0%)